平成30年度　第5回南区まちづくり懇話会　会議録

１.日時　　平成31年3月18日（月）　午後3時から午後5時まで

２.場所　　南区役所　3階会議室

３.(1)出席委員

前出委員、木村委員、野口委員、小山委員、平井委員、松浦委員、正木委員、吉村委員、岡委員（副会長）、芥川委員、宮澤委員、奥田委員、柴田委員（会長）、大村委員、藤本委員

(2) 出席職員

南区長、区民部長、保健福祉部長、総務企画課長、飽田まちづくりセンター所長、天明まちづくりセンター所長、幸田まちづくりセンター所長、南部まちづくりセンター所長、富合まちづくりセンター所長、城南まちづくりセンター参事、保健子ども課長、福祉課長、南農業振興課長

４.配布資料

(1)－会議次第
(2)－委員名簿
(3)－資料1「南区のまちづくりに関する報告書」
(4)－資料2「平成30年度南区まちづくり推進事業」

５.次　第

(1)開会
(2)議事
①南区のまちづくりに関する報告について
②平成30年度南区まちづくり推進事業について
③第3期南区まちづくり懇話会の振り返り
(3)その他

６.議事録

会長　　議事１について、事務局から説明をお願いする。

事務局　　（事務局説明）

会長　　平成30年度南区まちづくり推進事業について、ご質問やご意見はないか。

正木委員　　まち歩き手帖の改訂については、どうやって配布するのか。

事務局　　まち歩き手帖については、現在作成中だが、完成したら南区内の各まちづくりセンター、各区役所の総務企画課、城南図書館等に配布をする予定。

会長　　関連した質問になるが、Vol.2 は今年度改訂しているようだが、Vol.1、Vol.3、Vol.4はどうなっているのか。

事務局　　Vol.1は平成29年度に改訂して、まちづくりセンターや各区役所総務企画課等に配布した。Vol.3 と Vol.4 については、まだ在庫があるため、在庫状況を考慮しながら、平成32年度以降に改訂する予定。

会長　　富合の地域カフェについて、詳しく話を聞きたい。

富合所長　　富合地域は非常に人口が増えている地域なので、新旧住民の交流が重要だと考えている。たまたま地元の食の名人で、ボランティアでいろんなところで食事の提供をされている方がいらっしゃる。この方の提案もあって、いろんな方に来ていただいて、交流を深めていただく機会が出来ないかということで、地域担当職員の発案で事業を始めた。昨年の 3 月に第1回の開催をした。ただ、料理を食べていただくだけでは交流も深まらないので、おじゃめ交流会とか親子でおもちゃ作りとか、いろんな方が楽しめる企画を抱き合わせで開催をした。平日に開催したり、土日に開催したりしながら、いろんな機会を通じて、多世代の方の交流の場として集っていただけるようにということで、不定期で開催している。

毎回来られる方、抱き合わせの企画を楽しみにされている方など様々である。
また、みなし仮設の交流会をセットで開催したり、地域公民館で出張開催したりすることで、いろんな方の交流に寄与していると考えている。
これは、来年以降も継続して、今後とも富合地域の方の交流の場としたい。

会長　平成31年度南区まちづくり推進事業の中で、重点目標と基本目標すべてに連携している事業だったので、具体的にどんな感じかなと思ってお尋ねした。毎回40名で9回開催したということだが、やっぱり世代もいろいろ、新旧住民の方も混じっているのだろうか。非常に素晴らしい取り組みだと思う。
継続して来年度も実施するということなので、期待している。

副会長　校区自治協議会の方やまちづくりセンターは、いくつも事業を抱えていると思う。その場合の人的負担はどうなのだろうか。本年度の事業も見ても、来年度の事業を見ても、城南まちづくりセンター、富合まちづくりセンター、幸田まちづくりセンターは複数の事業が重なっている。それがちょっと心配かなというのが一点。
そして、城南まちづくりセンターにお尋ねする。「TEAM城南ワンダホー」は2年目に入るが、これまでの成果と来年度どのようにしていくのかを聞かせてほしい。

城南地域担当　まず、「TEAM城南ワンダホー」のメンバーは、20代から50代前ぐらいの方々がほぼ中心だが、「ワンダホー」という名前の通り「ワンダーでホットな集まり」ということで、わくわくしながら、楽しみながら熱い心で楽しくやろうということをモットーに、毎月の話し合いをとても楽しみにされている。
毎月1回の定例会とイベントごとに5回ぐらいの実行委員会を開催して、イベントを実施している。
地域担当職員としては、正直大変な部分はあるが、この事業の成果については、平成29年度に基礎調査を実施して、「どのような現状があって、どのようなことを目指していきたいか」「そのためにはどのような戦略が必要か」というようなこ

とを考えて、戦略の 3 本柱に基づいて実施計画を立てているので、その戦略に従って次年度以降も充実させていくという気もちでいる。平成 30 年度に実施した取り組みの手応えを持って、「TEAM 城南ワンダホー」のメンバーとしては「もっとこうしたかった」という点もあるし、参加者からは「とてもよかった」という声がある。
来年度は、さらにやっていこうというようなことで計画を立てているところである。

副会長　特に、私は甘いものが好きなので、スイーツの企画・商品化に関心がある。今後はどうするのか。

城南地域担当　正直、本年度はここまで持っていく予定ではなかった。もともと、火の君商品開発局を創設し、城南町の魅力の六次産業化を進めるというのが目的で、研修や視察、いろいろなマーケティングなどを行っていた。本年度「TEAM 城南ワンダホー」で婚活イベントを実施するにあたって、城南町の魅力を発信するというのが根底にあったので、ティータイムの時に提供するお茶とお菓子をどうするかという話になった。お茶は、城南町の茶畑でとれた「竹田製茶」の紅茶を出すことにした。スイーツもせっかくだから地元に頼んでみようかということになって、城南町のお菓子屋さん「ひなたまこっこ」に相談をして、こちらの企画意図をお話して、作っていただいたところ、とても好評で商品化されることになった。

副会長　本年度の事業を見てみると、いくつもカフェという言葉が出てくる。富合まちづくりセンターや幸田まちづくりセンターでカフェを開催するときに、「TEAM 城南ワンダホー」で開発した商品を提供して、マーケティングしてもいいのかなという印象を受けた。そうすることで、城南町の魅力を他の地域に発信することができるし、お互いの交流もできるので、できれば南区全体に広げてほしい。

会長　城南まちづくりセンターの地域担当職員が大変という正直な気持ちを話されたが、他の地域担当職員も大変な思いをしていると思う。この 2 年間の中で地元の方が「TEAM 城南ワンダ

ホー」のように育ってきていると思うので、任せるところはどんどん任せていった方がよい。それも地域担当職員の仕事だと思う。

副会長　　幸田まちづくりセンターも「幸田まちづくりサポーター」を立ち上げて、その中で事業を実施されているので、詳しく話を聞きたい。

幸田所長　　「幸田まちづくりサポーター」は、「TEAM 城南ワンダホー」とは違い、もっとゆるい制度。まず、「サポーター」に登録していただいて、できるときにできるしこで地域の取り組みをお手伝いしていただいている。
具体的には、5 月に自治会長から年間行事スケジュールを提出していただいて、その中から「サポーター」の方が興味がある取り組みに協力していただいている。
地域担当職員は、マッチングするのが仕事。自治会長から、何人くらいの人手が必要、男手がいる、女手がいるというお話があるので、人選には苦労している。
また、今年度は「花のまちカフェ」で子ども会をテーマにして話し合いをして、最後に子どもの防災宿泊訓練を実施したが、保護者で協力してくださる方が少なかったため、「サポーター」に協力していただいて、とても助かった。子どもたちにも「サポーター」の紹介をして、地域の中でのつながりもできた。
71 名になったので、温度差はかなりもあるが、将来の自治会長候補として、少しずつ地域のことに引き込んでいきたいと思っている。自治会長も「サポーター制度」に少しずつ引き込まれている。

野口委員　　地域には、自治会だけでなくいろんな活動団体がある。私の地域は、福祉協力員制度を立ち上げて 50 人ほど登録していただいているが、高齢化が進み、人材が不足している。私たちの活動のような自治会以外の地域の活動もぜひ紹介してほしい。

幸田所長　　「サポーター」の認定式で、自治会長とは顔合わせをしてい

るが、まだ他の地域団体の紹介ができておらず、申し訳なく思っている。
今後は、何人くらいの人手がいるなどまちづくりセンターに連絡していただければ、マッチングする。

副会長　　サポーターの中に企業とあるが、どんな企業なのか。

幸田所長　　平成30年度で言うと、肥後銀行田迎支店などが登録されているが、支店長から「田迎は“花のまち”として有名だったので、花を活用したまちづくりを進めてはどうか」というお話があったので、田迎西小学校で肥後菖蒲を植え、5月には咲く予定。また、田迎小学校に「花のまち田迎」という歌があるので、肥後銀行田迎支店の中で肥後山茶花の展示会を開催し、オープニングセレモニーで小学校の児童に「花のまち田迎」を歌ってもらった。その他、コデラ、メゾンドキタガワ、火の君マルシェなどに登録していただいている。
「サポーター」認定式で表彰をするため、サポーター企業の賞品をお渡している。

会長　　この事業が開始されるときに、熊本県立大学にも「サポーター」の応募の呼びかけがあったと思うが、幸田地域にお住まいの方以外も「サポーター」になれるのか。

幸田所長　　幸田地区全体の取り組みの協力をお願いしているが、サポーターの居住地は特に問わない。区外でも市外でもよい。

小山委員　　家庭訪問型子育て支援事業は、主任児童委員や民生・児童委員との連携はとれているのか。

保健子ども課長　　この事業は、もともと城南町で始まった制度で、ホームスタートジャパンのカリキュラムに沿って進めている。行政の支援の対象となるほどではないが、新しい環境になじめない子育て家庭やひきこもりの恐れがある子育て家庭に支援員が訪問して、一緒に行動しながら子育てを支援していく制度。平成29年度の利用世帯は5世帯だったが、現在は28世帯。これは、主任児童委員や民生・児童委員の紹介で広まったもの。

特に城南町、日吉校区、日吉東校区で増えている。

会長　やはり、新しい住民の利用が多いのか。

保健子ども課長　そこまではおさえていないが、地域になじめない方の利用が多い。

宮澤委員　主任児童委員に「研修を受けて、訪問支援員にならないか」というお声かけはあったが、7 回の研修を受けなければならないので、なかなか難しい。城南町の主任児童委員は全員受けているという話は聞いた。

会長　地域コミュニティづくり支援補助金は、補助対象事業として 4 つあげてあるが、他にどのような取り組みに対して交付しているのか。

事務局　豊田校区社会福祉協議会の成人式開催事業、田迎校区環境美化委委員会から二の井出石碑づくり事業などがある。備品を揃えるという目的では交付できないが、たとえば防災のために防災倉庫を設置するなど地域課題を解決するための取り組みであれば、備品購入に対しても補助している。
南区は申請件数が多いため、平成 31 年度は予算を増額している。

会長　平成 31 年度は「南区まちづくりフェア」がないようだが、他の事業に取り込まれているのか。

事務局　平成 31 年度は、イベントよりもまちづくりのための取り組みに重点を置くため、「まちづくりフェア」は休止としたもの。

会長　城南のスイーツを富合や幸田のカフェで提供してはどうかとか、幸田まちづくりサポーターを他の地域でもできないかとか、他の地域でも実施した方がいいのではないかと思う事業が多々あった。「TEAM 城南ワンダホー」はメンバーのキャラクターによるところもあるため、他の地域での実施は難しいと思うが、まちづくりセンターの地域担当職員は他のセンター

の事業等について、情報共有しているのだろうか。報告会などもあると、地域間の連携もできると思う。

事務局　　毎月 1 回まちづくりセンターと総務企画課の主査・主幹が集まって、座談会を開催し、それぞれのまちづくり推進事業の進捗状況を報告したり、人手が足りない場合は協力を要請したりなど南区管内で連携しながら進めている。

副会長　　平成 31 年度まちづくり推進事業について、「南区おいしいもの農業体験・料理教室」があるが、こういった事業をうまくまわすために、懇話会の専門家の知識や人脈をぜひ活用してほしい。
防災の事業については、飽田・南部・富合でそれぞれ実施することになっているが、総務企画課に防災班があるので、防災班に情報を集めて、よかった点は他のセンターや校区におとしてほしい。また、平成 30 年度は飽田でフォトロゲを開催して、平成 31 年度は南部でフォトロゲがあるので、南部のフォトロゲを飽田がお手伝いするようなことがあってもいい。
南区で情報を共有したり、協力する仕組みができると事業の幅が出てくると思う。

会長　　今回で第 3 期懇話会が最後になる。前回の懇話会で意見交換をした内容をもとに南区のまちづくりに関する報告書を事務局がまとめているので、説明をお願いする。

（　説　明　）

会長　　前回の議論を踏まえて、報告書がまとまったので、この報告書を区長にお渡しする。

（会長から区長へ報告書提出）

会長　　これで、2 年間の懇話会が終わったので、皆さんからこの 2 年間の感想をいただきたい。

正木委員　　私は、農業でこの懇話会に参加して、最初は訳がわからなか

ったが、皆さんのお話を聞いて、まちづくりというのはいろんな団体や人たちの協力で作り上げていかなければならないというのがわかった。また、南区では農業が大きなウェイトを占めているが、もっともっと地域のためにできることがあるとわかったので、地域のために頑張りたい。

吉村委員　川尻は、懇話会でお話が出たことは大体やっているので、地域が自立してやっていることを改めて認識した。
私は、歴史・文化で出ているが、あまり出番がなかった。地震の後だが、今は結構復興が進んでいる。元三町の諏訪神社や川尻の閻魔堂など、もうダメかなと思っていた地域の神社等が再建できた。無くなるのだろうなと思っていたものが着実に復興していて、ありがたいと感じている。すべて復興してしまってから、記録をまとめたいと思っている。

会長　川尻がうまくいっているポイントは何だと思われるか。

吉村委員　うまくいっているかどうかはわからないが、長い間それぞれの団体がいろんなことをやっている。子ども食堂やカフェなどもまちづくりセンターにお願いせずに、自立的にやっている。お金がかかることはお願いすることもあるが、基本的には自分たちでやっている。

芥川委員　懇話会には、民生委員の代表として参加した。民生委員は、常に弱者の見守りと支援が使命。守秘義務があって、具体的に何をしているというのは言えないので、民生委員の活動は声があげられない。今問題になっているのは、民生委員の担い手がいないこと。
連携という言葉がたくさん出てきた。地域間の連携はよくわかるが、行政と地域の連携をはっきりしてほしい。ここまでは行政にしてほしいということを主張してきたが、なかなか対応してもらえない。お金の問題だけでなく、時間が足りない。民生委員は仕事が多すぎてできないと言われる方が多く、後継者が育たない。民生委員が仕事しやすいような働き方を考えてほしいと言ってきたが、行政にわかってもらえない。

連携という言葉を使うときは、その意味を考えてほしい。

会長　確かに、もっと簡素化する必要がある。連携という名のもとに、行政から地域に一方的に仕事がおりてくるのはよくない。一方で、地域もお金だけ要求する状況もよくない。

芥川委員　今は 70 歳まで働く時代。民生委員も 70 歳過ぎてから就任することになるが、仕事が多すぎて高齢者には難しい。民生委員の担い手がいない校区も出ている。
また、民生委員の仕事は公に発信できる内容ではないので、活動費もあまり要求できない。

宮澤委員　昨年の懇話会の中で「連携」というキーワードが出てきて、「連携」を軸に話し合いを進めてきたが、最終的な報告書や来年度の事業を見ると、「連携」を主体に考えてもらっている。いろんなところをつなげて連携していこうというのが見えた。
個人的は、南区内の視察に参加して、南区の端から端までバスで見て回って、知らないところがたくさんあったので、楽しかったし、いい勉強になった。
子育てについては、報告書の中に「乳幼児」や「子育てサークル」について盛り込んでもらって、ありがたい。
前回の懇話会でお話ししたが、南区の子育てサークル交流会については、全国で発表する機会もあったし、今後も継続していきたいと思っている。また、この交流会については、南区長賞を提供してもらって感謝している。

奥田委員　私は、商業代表で出席しているため、この懇話会の内容については、商工会のメンバーには伝えている。
私たち商工会は、地域の皆さんのおかげで生活できているわけなので、商工会の団体として、協力できる部分は、喜んで協力する。ぜひ、いろんな場面で皆さんからお声かけをしていただきたい。
商工会は、子どもの見守りでかけこみ商店をつくるなど地域の方のための取り組みも実施している。
さきほど、幸田まちづくりサポーター制度のお話があったので、企業サポーターとして登録したいと思ったが、実は幸田

には商工会がない。南区内に商工会があるのは、飽田・天明・富合・城南の 4 ケ所。協力できる部分は、今後も協力していくので、ぜひお声かけしていただきたい。

大村委員　私は、一般公募で参加した。子どももいるので、子育ての観点でお話ができればと思っていたが、皆さんのお話を聞いて、生活する上で、農漁業、歴史・文化、自然、健康などすべてに関わってくるというのがわかった。
南区についても知っているつもりだったが、知らないことだらけで、海も山も川も都市部もあって、とてもすてきなまちだということがわかって、とてもよかった。

藤本委員　私も一般公募で参加した。恥ずかしながら、まちづくりセンターって何？というところから始まった。鹿児島出身ということもあって、南区のことも何も知らなかったということもわかった。南区が好きになった。また、皆さんが南区のために頑張っていらっしゃることも知ることができた。他の方に伝えていきたいと思った。これから、何かの役に立てるよう頑張っていきたい。

会長　普通に暮らしている方にこそ、ぜひまちづくりの主役になっていただきたいし、だれでも何でもできると思うので、ぜひ近所の方やお子さんのつながりの方に広めてほしい。

松浦委員　2 年間、いろんな意見を出してきたが、皆さんの意見がどういう風に報告書に反映されるのかが一番関心があったが、計画も期限もないので、本当に 2 年間の話し合いの結果が今後のまちづくりに活用されるのか疑問に思った。
何年続けても、同じようなことになるのではないかのではないか。こういう会議を開くのであれば、委員の意見に対する行政からの回答とか、いつまでにやるとか、どの地域を中心に活性化するとか、ポイントを決めて進めていかないと、2,800 万円の予算では効果は得られない。本当にまちづくりを推進するための会議であれば、そういう風に活用してほしい。
私が 2 年前にビジョンの目標値についてお尋ねしたときに

「ビジョンだから目標値はない」という回答があったが、予算を使うのであれば、目標値は設定するべきだと思う。

会長　　おっしゃる通りで、目標値がないためぼんやりしたものになっている。本当にやるのかやらないのかとい話はある。継続する部分と集中する部分があると思う。

平井委員　　私は富合代表で出席したが、富合は校区自治協議会会長として出席する会議が 6 つあるので、分散したいと思っている。本年度は、校区防災連絡会にも取り組んできたので、来年度は 4 ケ所の避難所運営委員会で連携して避難訓練をやりたいと思っている。また、まちづくりセンターと連携しながらやっていきたい。

会長　　会長職に負担が集中してしまうのはよく聞く。今後検討しなければならない問題。

小山委員　　今、会長職が忙しいという話が出たが、私の校区もそういった事情があって、私が出席することになったと思う。最初は何が何かわからなかったが、出席してとても参考になった。地域もとてもよく頑張っているし、行政も地域の皆さんの意見を聞きながら、まちづくりをしている。私は今日で終わりだが、地域に帰ってまちづくりに参加したいと思う。
また、自己反省として、建設的な意見を言っただろうか、マイナスな意見ではなかっただろうかと思っている。
余談だが、天明中学校の活動が道徳の本に載ったという話を聞いて、とても感激した。

野口委員　　私も民生委員だが、なぜか幸田地域の代表として出席している。
さきほど、芥川委員が民生委員の実情を話されたが、全くその通りで、福祉活動の主になって動いている身としては、人材不足が大きな課題。私たちも高齢なので、若い方に福祉の担い手になっていただきたい。田迎ではいろんな取り組みを住民主体でやっているが、楽しい会で終わっていてまちづくりという視点が抜けていたかもしれないと感じている。今ま

でやってきたから、消化するためにやっているのではないよねという点を地域に帰って、もう一度考えたい。もっと住みやすいまちにするためにはどうすればいいかを考えながら取り組むことで、もっといいまちになると思う。田迎南校区は、太陽がサンサンと降り注ぐまちで、昔は「花のまち」と呼ばれていたが、宅地が増えて、ハウスも減ってしまった。でも、「花のまち」の名のとおり明るいまちなので、懇話会で教えていただいたことを地域に持ち帰って、広げていきたい。大村委員も田迎南校区なので、一緒に頑張っていきたい。

木村委員　校区自治協議会長として、まちづくりについて考える機会をいただいて感謝している。自治会長を 5 年務めていて、来年度から 6 年目になる。まちづくりとは、何なのか結局わからなかったが、行政が道路・コミセンなどのハード部門をつくって、わたしたち地域がソフト部門を担当するのかなと漠然と考えている。

川口校区では、小学校で元気フェスタをつくっていて、「みんなが健康で元気なまち」「自然と共生した住みやすいまち」を実現するため、地域でつくった野菜を調理して食事を出したり、地元の医師の健康診断を受けたりしている。「安全・安心なまち」の防災関係については、地域だけで担えない部分が多いので、懇話会の中でも意見した。天明と中島は、洪水が起きれば 4 メートルまで水がくるが、避難所がない。地震の時は、小学校やコミセンを避難所として、私たち校区自治協議会もボランティアで運営をしてきた。しかし、洪水が起きた場合は、避難所もなく、私たちの役割は担えないので、洪水が起きた時の避難場所の整備について、意見した。具体的には、できれば学校の屋上を避難所にできないのかということを行政には再三言ってきた。天明には津波はこないが、洪水と高潮はありうる。地域の中では、高潮がきたときは、2 階に避難しよう、平屋の場合は、2 階がある家に避難させてもらおうという話をしている。災害弱者については、みんなで手助けして小学校の屋上に行ってもらおうと考えている。川口校区は全部で 1,000 人ほどなので、そのうち学校に 100～200 人くらい避難ができればと思っているが、なかなか動かない。実際は、中島など他の地域との連携も必要になってくると思

うが、今後も継続して高台の避難所について訴えていきたい。

奥田委員　天明中学校の活動については、有明海を守るためには、森を育てなければならないということで、漁民の森を天明中学校の生徒が育ててきた。緑川の源流の森まで登って行って、草刈りをしたり、植林をしたりする活動が道徳の本で紹介された。法人会から道徳の本を中学校に寄贈することになって、先週の中学校の卒業式で贈呈式が行われた。

正木委員　海は川から、川は山に降った雨からできているので、海の恩恵を受けている漁業者と川の恩恵を受けている農業者でどこを大事にしようかという話になったときに、街中は手が出せないので、学校も含めて山と田んぼを守る活動が始まった。私たち農家も毎年 2 回草刈りを行っている。緑川だけでなく、白川でも同じような活動がある。

宮澤委員　天明中学校の生徒会を中心に 30 年くらい地域団体と一緒になって、受け継がれている事業。最近、いろんな表彰を受けている。

会長　連携、連携と言ってきたが、実際 30 年も農・漁業、自然、教育、子どもで連携してやっているということなので、すばらしい。

前出委員　飽田地域の代表として出席した。この間「南区まちづくり自慢大会」で飽田の青少年育成協議会が発表したが、飽田中学校の 2 年生も南阿蘇で「飽田の森」を 20 年育てている。
今年は、雨が降って生徒は参加できなかったので、役員 25 名で植樹をした。今年は、肥後銀行から「水と緑の愛護賞」をいただいたので、中学 2 年生が代表で表彰された。飽田中学校の活動も紹介したい。
私も自治会長を 4 年務めたが、懇話会の区内視察に参加したことで見ていないところ、知らないところがたくさんあることがわかって、とてもいい経験になった。こういうことはドンドンやってほしい。
防災については、私の町内は、避難訓練を 2 年に 1 回やって

いて、先日ありがたいことに東校区第5町内で表彰を受けた。私は自治会長を務めた中で、3日間研修を受けて、防災士の免許をとった。自治会長時代は、案内があった研修は必ず受けてきた。私の地域は、副会長が会長になるという取り決めがあるので、役員選考でもめることはないが、今後は担い手不足になるのではないかと心配している。
この懇話会に参加して、とても勉強になった。

副会長　この懇話会では一番の古株で、3 期 6 年続けてきたが、今年度で卒業する。この 6 年でこの懇話会、そしてまちづくりの中身がいい方に変わってきたと思う。皆さんもこの懇話会は一体何をするのだろうと思われたと思う。1 期の懇話会や柴田会長の前任の会長とも随分話し込みをしてきたが、私は懇話会の役割は 3 つあると思う。1 つ目は、皆さんのお手元にある南区まちづくり推進事業や南区のまちづくりについてのチェック機能。こんな風に南区の地域代表の方とテーマ代表の方が集まって話し合う場はないので、南区のまちづくりの提案の場とも言える。2 つ目は、まちづくりを推進するための地域間の競争と連携の場。これをやらないと、成長しない。3 つ目は、地域と行政の橋渡し、連携の場。懇話会には、南区役所の区長、部長、課長、所長が全員揃うが、このように行政と直接話ができる場は他にない。
派手なことはなくてもいいが、皆さんの暮らしの中でのまちづくりを充実させる取り組みをしていくかが重要。まちづくりは日々の暮らしの積み重ね。その中に、健康、福祉、子育て、環境、歴史・文化、農漁業、防災・防犯などいろんなものがある。防災は予測不可能なものなので、事前の予防避難を考えることが大事。予防するためには、災害を知ること、地域を知ること、地域の歴史・地形を知ることが重要。まちづくりは地域を知ることから始まる。私は、芥川委員の下で民生委員も務めているが、地域の中に入り込んで、無理せずにできる範囲で活動できればいいと思っている。
事務局にお願いだが、これまでの委員の方のデータベースをつくって、まちづくりサポーターの南区版をつくって、何かのときは懇話会 OB・OG の皆さんのお知恵を借りたり、協力をお願いしたりする。また、懇話会 OB・OG の皆さんが何か取り

組みをされるときには、他の皆さんにも協力をお願いするなど南区の応援団として活動していけるような仕組みを考えてほしい。
私は、田迎南小の総合学習で講話をしてきたが、住宅が激増し、以前はきれいな水が流れていた井出がなくなり、環境が大きく変わって、まちが大きく変わっている。この変化を地域の方がどう捉えていらっしゃるのか心配している。そういったことを子どもに教えていく、そしてきれいな井出を取り戻すためにはどうすればいいかを含めて取り組んでいければと思っている。

会長　本日も活発な意見交換をしていただき感謝している。第 3 期はこれで最後になるが、実は、私は来期も継続の予定。本日の会議では、皆さんからたくさん宿題をいただいた。芥川委員から行政と地域の役割分担をきちんとしてほしいというご意見があった。これは岡副会長が言われた地域と行政の橋渡し・連携の部分になると思う。また、松浦委員から計画・目標値がないのはどうなのかというご意見があった。これは、チェック機能の部分で、いままで弱かったところになると思う。競争と連携の部分については、その役割は果たせたと思うので、前の 2 つについては、今後の宿題・課題だと思っている。
一方、多くの皆さんから勉強になったというお言葉があったので、ぜひ今後は地域に広げていただきたい。
また、岡副会長からは懇話会 OB・OG のデータベース化をというお話があったが、私は、さらに進めてプロジェクトチームをつくって、事業を 1 つ任せるくらいになればいいと思っている。
まちづくりは終わりがないので、懇話会委員を終了した後も引き続きよろしくお願いしたい。

区長　皆様には大変お世話になり、感謝している。
さきほど報告書をいただいたので、この報告書をもとに実行に移せる部分は、取り組んでいきたいと思っている。
皆様には、平成 29 年度から懇話会委員を務めていただいたが、私も平成 29 年度に南区長に就任し、皆様と一緒に卒業す

ることになる。この 2 年間、皆様のおかげで南区のまちづくりを進めることができた。私は東区在住で、南区のことは全く分からない状況だったが、皆様からいろんなご意見を頂戴して、南区は活発にまちづくりが進んでいる地域だというのが率直な感想だった。皆様が取り組まれるまちづくりをどうサポートしていくのか、区役所内で連携するとともに、本庁とも連携しながら進めてきたが、力不足の部分もあったと思う。皆様には、本当に感謝している。

会長　　区長には、最後の仕事として、次期区長にこれまで懇話会がやってきたことを引き継いでもらいたい。